

授業科目	看護学概論	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	看護学は人間の健康の保持・増進を目指す実践活動である。本科目では看護の本質や役割と機能を学ぶ。また、看護が今日に至るまでの軌跡を起源から辿り、歴史上の事実を学ぶことによって、看護が人間社会に貢献しており、多大な存在意義があることを理解する。そして看護に対する考え方や、社会的評価が歴史的にみてどのように変化していったのかを、その時代の生活、宗教、経済、社会（特に戦争）などとの関連から学ぶ。各内容ごとのワークシートを活用し、適宜GWを行いながら看護の構造や看護の対象を理解し、看護倫理の育成を図る。		
目的	看護の本質を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護の本質について理解する 2.看護の原点、F.ナイチンゲールとV.ヘンダーソンの看護観を知る 3.看護の歴史を理解する 4.職業としての看護を理解する 5.看護職者の養成について理解する 6.看護の提供の仕組みを理解する 7.看護における倫理を理解する 8.看護の対象である人間について理解を深める 		
評価方法	筆記試験 90点 課題レポート 10点		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野Ⅰ・基礎看護学Ⅰ・看護学概論：医学書院 看護覚え書き：日本看護協会出版会 看護の基本となるもの：日本看護協会出版会 人間対人間の看護：医学書院		
参考図書	授業内で指示します		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	ガイダンス フローレンス・ナイチンゲールの看護観	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護を学ぶ意味や意義を確認する 2. フローレンス・ナイチンゲールの看護理論の概略を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. フローレンス・ナイチンゲール著：「看護覚え書き－本当の看護とそうでない看護－」について 	講義	「看護覚え書き」は基礎看護学の授業の進度に合わせ1年間かけ読んでいく
2	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護観	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論の概略を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴァージニア・ヘンダーソン著：「看護の基本となるもの」について 	講義	「看護の基本となるもの」は基礎看護学の授業の進度に合わせ1年間かけて読んでいく
3	看護の歴史	看護の原点から近代看護への変化を通じ看護の本質を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護の歴史 2.看護の原点と語源 3.ナイチンゲール以前の看護と近代看護の確立 	講義	
4.5.6	「看護」の本質	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護の本質を理解する 2.看護の役割と機能について理解する 3.看護の継続性と情報の共有を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護理論とは 2.看護の定義（理論家による定義、職能団体の定義、定義の構成要素、法律上の看護師の役割） 3.看護行為としての本質－ケア－ 4.看護師の思考プロセス（思考判断） 5.看護技術の特徴 6.看護の質の保障 7.自立した看護師に求められる能力 8.看護の継続性と情報共有 	講義 演習	

7.8	看護の対象の理解： 人間について	1.人間の「ところ」と「からだ」を理解する 2.生涯発達し続ける存在としての人間を理解する 3.身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面をもつ統合体としての人間を理解する 4.生活者としての人間を理解する 5.看護の対象としての家族・集団・地域を理解する	1.身体の理解とところのつながり 2.ストレス反応、ところの理解に役立つ理論（マズローの欲求の階層、危機理論） 3.成長・発達・発育、 4.生活者としての人間 5.看護の対象としての集団 6.身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面を持つ統合体としての人間の理解	講義 演習	
9	看護の対象の理解： 人間関係について	看護を人間関係の視点からとらえる	ジョイス・トラベルビーの「人間対人間」の看護について	演習	
10	看護における倫理	1.現代社会における職業倫理を理解する 2.医療をめぐる倫理の歴史の変遷を学ぶ 3.看護実践における倫理問題への取り組みを理解する 4.倫理原則を理解する	1.倫理とは 2.倫理を学ぶ意味 3.職業倫理と看護倫理 4.医師会の取り組み（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言から） 5.看護師協会の取り組み 6.倫理原則 7.現代医療を取り巻く倫理問題	講義	
11.12	看護の提供のしくみ ・看護サービス ・経済 ・医療安全	1.サービスとしての看護を理解する 2.看護サービスの場を理解する 3.看護・医療に関わる法制度を理解する 4.医療安全と医療の質の保障を理解する 5.看護サービス管理を理解する 6.看護・医療における経済のしくみについて理解する	1.看護サービスの提供の場 2.チーム医療における看護師の役割 3.医療施設の定義 4.地域における看護の特徴 5.看護サービスと看護職者に関わる法律 6.看護職者の労働に関わる法律 7.医療事故における法的責任 8.ヒューマンエラーと医療事故 9.看護サービス管理とは 10.組織とは 11.医療制度の概要	講義	
13	職業としての看護	1.職業としての看護の始まりを理解する 2.職業としての看護の確立を理解する 3.職業としての看護の新たな展開を理解する	1.職業としての看護の始まりと保健師助産師看護師法の制定 2.看護師の人材確保に関する問題、看護師の質の向上への取り組み。3.今後期待される看護師のあり方	講義	
14	看護職者の養成	1.看護職の養成制度を理解する 2.看護職者の教育とキャリア開発を理解する 3.看護職者の役割拡大の現状を理解する 4.看護教員の育成について理解する	1.法的な規定 2.看護職者の養成3.と就業状況看護職者のキャリア開発 4.看護職養成に関する課題 5.拡大する看護職の役割、看護教員養成	講義	
15	テスト				

授業科目	共通基本技術	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	看護技術は対象となる人々に対して安全・安楽に、できる限り身体的・精神的・社会的に自立して、生活が送れるよう援助する技術である。本科目では、看護技術の土台となる共通する考え方や技術の基本を学ぶ。医療を行う上での基本であり対象と看護師を病原微生物から守るための感染予防の技術、対象や看護師自身の安全や安楽を守るための医療安全の視点を学ぶ。また、看護技術の実践においては、人間関係の形成や対象理解が基盤となる。そのため、対象を理解し、関係性を構築するためのコミュニケーション技術を学ぶ。さらに、災害や緊急な対処が求められる状況に応じて適切な判断と行動がとれるよう救命救急処置技術を学ぶ。これらの技術は、さまざまな看護場面において必要となる基本技術である。		
目的	看護技術の土台となる共通する考え方や技術の基本を学ぶ。		
目標	1.感染予防の意義と援助方法を理解する 2.感染予防のための技術を身につける 3.病床環境の意義と環境調整について理解する 4. 環境調整のための技術を身につける 5.安全管理の意義と援助方法を理解する 6.救命救急処置技術の意義と援助方法を理解する 7.救命救急処置技術を身につける 8.対象理解の基本技術を理解する		
評価方法	筆記試験 技術試験（配分：ベッドメイキング 1割）		
使用テキスト	<系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 <系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院 <系統看護学講座> 統合分野・医療安全：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院 看護がみえるVol3 フィジカルアセスメント		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で13年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	救命救急処置技術 1) 救命救急処置の基礎	一次救命処置技術について理解する	救命救急処置技術の基礎知識 一次救命処置（BLS）の実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	コミュニケーション 1) コミュニケーションの基本	コミュニケーションの基本について理解する	コミュニケーションの基本 プロセスレコードとは	講義	基礎看護技術Ⅰ
3	安全確保の技術	安全確保の基礎知識と援助方法を理解する	安全確保の基礎知識 誤薬防止 チューブ類の事故防止 患者誤認防止 転倒・転落防止	講義	基礎看護技術Ⅰ
4	看護の継続性と連携 1) 対象を理解するための情報収集 2) 情報の伝達と共有化 3) 対象の健康上の問題を明らかにする	対象を理解するための情報収集について理解する 情報の伝達と共有の大切さについて理解する 情報の分析方法や対象の捉え方について理解する	人として対象理解するための情報収集 情報収集の内容や方法 カンファレンスとは 報告・連絡・相談の重要性 対象の情報を分析し、対象の健康上の問題を明らかにする。 対象のねがいをふまえ、対象に必要な看護を検討する。	講義	看護学概論
5	看護記録	看護に必要な記録を理解する	記録の基礎知識	講義	基礎看護技術Ⅰ
6	感染防止の技術 1) 感染の成り立ちと感染予防の基本	感染予防の基礎知識について理解する	感染の成り立ちと感染予防の基本、手指衛生、個人防護用具の装着方法の体験	講義・演習	基礎看護技術Ⅰ
7	感染防止の技術 2) 標準予防策	標準予防策について理解する	感染防止の基礎知識、標準予防策（スタンダード・プリコーション）について	講義	基礎看護技術Ⅰ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	感染防止の技術 3) 感染経路別予防策	感染経路別予防策について理解する	感染経路、それぞれの感染経路別予防策	講義	基礎看護技術Ⅰ
9	感染防止の技術 4) 洗浄・消毒滅菌、医療廃棄物の処理	洗浄・消毒・滅菌、医療廃棄物の処理について理解する	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、医療廃棄物の取り扱いについて	講義	基礎看護技術Ⅰ
10	環境調整技術 1) 療養生活の環境と調整	1.環境とは何か理解できる。 2.療養生活と環境について理解できる	環境とは 療養生活と環境 環境調整の必要性 病床環境の調整	講義	基礎看護技術Ⅱ
11	環境調整技術 2) 病床の環境整備とベッドメイキング	1.病床環境を整える目的が理解できる。 2.病床環境を整える方法について理解できる	病床環境を整える 環境整備の目的・方法 ベッドメイキングの目的・方法 臥床患者のリネン交換目的・方法	講義	基礎看護技術Ⅱ
12	環境調整技術 3) ベッドメイキングの実際	ベッドメイキングを実施する	しわがなく崩れにくいベッドの作成、クローズドベッドからオープンベッドへの整え方 ポディメカニクスの活用	演習	基礎看護技術Ⅱ
13	環境調整技術 4) ベッドメイキングの実際	ベッドメイキングの技術を習得する	対象に合わせたベッドメイキングの作成 しわがなく崩れにくいベッドの作成、クローズドベッドからオープンベッドへの整え方 ポディメカニクスの活用	技術試験	
14	環境調整技術 5) 臥床患者のシーツ交換と環境整備	臥床患者のシーツ交換と環境調整を実施する	対象の生活しやすさを考えた環境調整 対象に負担をかけないリネン交換の方法、清潔なりネンと汚染されたりネンの取り扱い 対象への配慮	演習	基礎看護技術Ⅱ
15	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅰ	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	15
科目設定理由	<p>対象が安全に安心して療養に専念できるよう支援することは看護師の役割である。本科目では、安全安楽な生活行動（活動・休息）を調整・支援する基本的技術を身につける。そして科学的根拠に基づき対象にあわせた援助を工夫できる能力を養う。</p> <p>合わせて、看護師と対象にとって無理のない安楽な動き、援助行動の基礎となるボディメカニクスの原理や日常生活に支障をきたしている対象への配慮など、倫理的判断についても考えを深める。</p>		
目的	安全安楽な生活行動（活動・休息）を調整・支援する基本的技術についての基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学ぶ。		
目標	<p>1.活動・休息援助技術の意義と援助方法を理解する</p> <p>2.活動・休息援助技術を身につける</p>		
評価方法	筆記試験 技術試験（配分：車椅子移送・移乗介助、体位変換・保持 1割）		
使用テキスト	<p><系統看護学講座>専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院</p> <p><系統看護学講座>専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院</p>		
参考図書	<p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院</p> <p>看護がみえるVol3 フィジカルアセスメント</p>		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で、11年の実務経験者	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	活動・休息援助技術 1) ボディメカニクス	活動・休息を促すことの意義や援助方法について理解する	活動・休息を促す意義 同一体位による身体への弊害 ボディメカニクス技術の基本 安静の意味と意義、体位の種類	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	活動・休息援助技術 2) 体位保持・体位変換	体位と移動に関するアセスメント、体位保持の工夫と援助ができる	体位の種類、体位の身体的影響、 体位変換の目的、 安楽な体位保持の援助方法と工夫 体位と移動に関するアセスメント、 体位変換の体験 1)水平移動 2)上下移動 3)臥位から側臥位 4)臥位からファーラー位	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
3	活動・休息援助技術 3) 車椅子移乗・移送の実際	車椅子移乗・移送ができる	車椅子各部の名称、点検方法、 車椅子移乗・移送の援助方法、 (臥位から端座位、車椅子移乗、車椅子移送) ボディメカニクスの活用方法、 安全・安楽に援助を行うための工夫、 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	活動・休息援助技術 4) ストレッチャー移乗・移送の実際	ストレッチャー移乗・移送ができる	ストレッチャー各部の名称、点検方法、 ストレッチャー移乗方法 (3人による移乗、バスタオルを用いた移乗) 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	活動・休息援助技術 5) 睡眠・休息を促す援助	睡眠・休息を促す援助について理解する	睡眠の意義と目的、睡眠の種類と役割、 睡眠・休息のアセスメント、 生体リズム（サーカディアンリズム）、 睡眠を妨げる因子、睡眠障害の種類、 睡眠・休息を促す援助方法	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
6	活動・休息援助技術 6) 体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の実際	体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送ができる	ボディメカニクスを活用した体位変換、 ボディメカニクスを活用した安全な車椅子移乗、安全な車椅子移送、安楽な体位変換、 援助時の配慮した声かけ、観察	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	活動・休息援助技術 7) 体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の実際	体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の技術が習得できる	ボディメカニクスを活用した体位変換、ボディメカニクスを活用した安全な車椅子移乗、安全な車椅子移送、安楽な体位変換、援助時の配慮した声かけ、観察	技術試験	
8	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅱ	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	<p>本科目では、対象のニーズに応じた衣生活・清潔行動の調整・支援をするための基本的技術を学習する。</p> <p>人間にとって身体の清潔が保たれることは、どのような健康状態・発達段階にあっても人間の基本的欲求として満たされるべきである。清潔と衣生活の意義と援助方法を学び、様々な清潔援助を通して対象に合わせた援助を工夫できるようになるための基礎的技術を身につける。健康であれば、清潔行動は人に委ねることなく、自分自身で行う行為である。対象者の清潔行動に関心を持ち、対象の自立や羞恥心に配慮した援助につなげられるようにしていく。</p>		
目的	対象のニーズに応じた衣生活・清潔行動の調整・支援をするための基本的技術を学ぶ。		
目標	<p>1.清潔・衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する</p> <p>2.清潔・衣生活援助技術の基礎的技術を身につける</p> <p>3.対象の個性に合わせた清潔・衣生活援助を考え、実践することができる</p>		
評価方法	<p>筆記試験</p> <p>技術試験（配分：部分浴 1割、オムツ交換・点滴をしていない患者の寝衣交換・全身清拭 1割、洗髪 1割）</p>		
使用テキスト	<p><系統看護学講座>専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院</p> <p><系統看護学講座>専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院</p>		
参考図書	<p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院</p> <p>看護がみえるVol3 フィジカルアセスメント</p>		
科目担当	専任教員	助産師として附属病院と他病院合わせて9年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	清潔・衣生活援助技術 1) 術清潔援助の基礎知識	清潔の意義と援助方法を理解する	清潔とは、汚れの原因と清潔方法、清潔援助における生理・精神・社会的影響と看護者の役割、清潔援助のプロセス、入浴の目的と全身への影響、入浴・シャワー浴の実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	清潔・衣生活援助技術 2) 部分浴の援助（手浴・足浴）	部分浴の意義と援助方法を理解する	部分浴の適応と目的、手浴（手の特徴、目的、効果、留意点、観察）、足浴（足の特徴、目的、効果、留意点、観察） 部分浴における原理・原則 足浴のデモンストレーション	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
3	清潔・衣生活援助技術 3) 部分浴の援助の実際	部分浴の援助ができる	臥床または座位保持が可能な対象への足浴 使用物品の準備と配置、湯温の調整と取り扱い 体位と支え方、石鹸を用いた洗浄、保温に配慮した工夫、援助を実施しながらの観察・声かけ	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	清潔・衣生活援助技術 4) 対象に応じた清潔援助の実際（部分浴・爪切り）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション ・爪切りの実際	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	清潔・衣生活援助技術 5) 対象に応じた清潔援助の実際（部分浴）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際の技術を習得できる	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	技術試験	
6	清潔・衣生活援助技術 6) 衣生活の基礎知識と援助	衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する	衣服の意義、対象者の状態と衣生活、衣生活に関するアセスメント、援助の実際、臥床患者の寝衣交換の実際、輸液ラインが入っている場合の寝衣交換	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
7	清潔・衣生活援助技術 7) 全身清拭と陰部ケア	全身清拭の意義と援助方法を理解する	全身清拭の意義、清拭実施前のアセスメント、清拭援助の実際、陰部ケアの意義、陰部洗浄の目的と実際 清拭と陰部清拭の体験	講義	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	清潔・衣生活援助技術 8) 全身清拭と寝衣交換の実際	全身清拭、寝衣交換の援助ができる	臥床患者の全身清拭と寝衣交換・陰部ケア・オムツ交換 使用物品の配置と環境調整、湯温の調整と清拭タオルの取り扱い、身体各部の特徴に合わせた清拭方法、対象の羞恥心や保温に配慮したバスタオルの使い方、対象の身体に負担がかからない寝衣の交換方法、援助を実施しながらの観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
9	清潔・衣生活援助技術 9) 対象に応じた清潔援助の実際（全身清拭）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	演習	基礎看護技術Ⅱ
10	清潔・衣生活援助技術 10) 対象に応じた清潔援助の実際（全身清拭）	清潔援助の実際（全身清拭、寝衣交換、陰部ケア、オムツ交換）の技術を習得できる	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	技術試験	
11	清潔・衣生活援助技術 11) 頭皮、頭髮の清潔援助	頭皮・頭髮の清潔の意義を理解する	頭皮・頭髮の清潔の意義、洗髪実施前のアセスメント、洗髪の援助の実際、安楽な体位	講義	基礎看護技術Ⅱ
12	清潔・衣生活援助技術 12) 洗髪の援助の実際	洗髪の援助ができる	臥床している対象の洗髪車を用いた洗髪 椅座位が可能な対象の洗髪車での洗髪 使用物品の準備・配置、湯量と温度の調整、安楽な体位、ブラッシング、洗い方、すすぎ方、整髪、配慮した声かけ・観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
13	清潔・衣生活援助技術 13) 対象に応じた清潔援助の実際（洗髪）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	演習	基礎看護技術Ⅱ
14	清潔・衣生活援助技術 14) 対象に応じた清潔援助の実際（洗髪）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際（洗髪）を習得できる	臥床している対象の洗髪車を用いた洗髪 椅座位が可能な対象の洗髪台での洗髪 使用物品の準備・配置、湯量と温度の調整、安楽な体位、ブラッシング、洗い方、すすぎ方、整髪、配慮した声かけ・観察	技術試験	
15	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅲ	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	<p>本科目では、対象のニーズに応じた食事・排泄、整容行動の調整・支援をするための基本的技術を学習する。</p> <p>人間にとって栄養を補給し、消化・吸収を経て排泄する機能は、生命維持に欠かせない機能である。授業を通して、人間が生きるための食事の意義を考え、対象の食行動や食生活に関心をもち援助につなげられるようにしていく。</p> <p>また、健康であれば、排泄や整容は人に委ねることなく、自分自身で行う行為である。患者の自立にむけ、羞恥心に配慮して援助につなげられるようにしていく。</p>		
目的	対象のニーズに応じた食事・排泄、整容行動の調整・支援をするための基本的技術を学ぶ。		
目標	<p>1.食事援助技術の意義と援助方法を理解する。</p> <p>2.食事援助技術を身につける</p> <p>3.排泄援助技術の意義と援助方法を理解する</p> <p>4.排泄援助技術を身につける</p> <p>5.整容の援助技術の意義と援助方法を理解する</p> <p>6.整容の援助技術を身につける</p>		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<p><系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院</p> <p><系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院</p>		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で11年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	食事援助技術 1) 食事の意義と食生活の支援	食事の意義を理解し、食生活の支援について理解する	食事・栄養のもつ意義、食事援助をアセスメントするための基礎知識、嚥下・消化吸収のしくみ	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	食事援助技術 2) 食事摂取の介助	食事介助方法、食事療法の基本について理解する	食事療法とは、食事介助について、援助の基礎知識、誤嚥しない姿勢 食事環境整備、食事介助時の観察項目	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	食事援助技術 3) 非経口的栄養摂取方法	摂食・嚥下に関する援助の実際と非経口的栄養摂取の援助の実際について理解する	摂食・嚥下に関する援助方法とその根拠、食事介助時の声かけ、食事時の環境調整、プライバシーへの配慮、食事介助を受ける対象の思いについて、非経口的栄養摂取の援助方法の種類と特徴 (経鼻経管栄養法による流動食の注入、経鼻-胃チューブの挿入、胃瘻法、中心静脈栄養法)	講義	基礎看護技術Ⅱ
4	食事援助技術 4) 食事摂取介助の実際	食事介助の方法と留意点、態度について理解し食事の援助方法が実施できる	患者誤認防止の方法、食事に集中できる環境調整、誤嚥しない体位の工夫、安全に食事を摂取する方法 (食事のペース、一口量、口へ運ぶタイミング)	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	清潔・衣生活援助技術 1) 口腔ケア 2) 整容(洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り)	口腔ケアの意義と援助技術について理解できる	口腔ケア、整容の意義、口腔ケア援助時のアセスメント、口腔ケアの実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
6	清潔・衣生活援助技術 2) 口腔ケアと整容援助の実際	口腔ケア・整容の援助技術が実施できる	顔面清拭、口腔ケア、T字剃刀を用いた髭剃り 使用物品の準備・配置、顔の構造・特徴に合わせた清拭、誤嚥を起こさない方法での口腔ケア、皮膚を傷つけない方法での髭剃り、心理的苦痛への配慮、援助を実施しながらの観察	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	排泄援助技術 1) 排泄の意義と看護師の役割	排泄の意義と看護師の役割について理解する	排泄の定義、排尿の機序と正常、排便の機序と正常、排泄に影響を与える因子、排泄の援助の意義（看護の役割）	講義	基礎看護技術Ⅱ
8・9・10・11	排泄援助技術 2) 自然排泄の介助 3) 自然排泄の介助の実際 4) 対象に応じた排泄援助の実際（尿器、便器、ポータブルトイレの介助、おむつ交換） 5) 洗腸・摘便	2) 便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換の援助方法を理解する 3) 便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換ができる 4) 対象の状態や状況に応じた排泄援助の実際を学ぶ 5) グリセリン洗腸・摘便の援助方法について理解する 洗腸・摘便ができる	・自然排泄の援助（デモンストレーション） 便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実際 ・羞恥心に配慮した排泄援助、便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実際 ・①対象の症状や状況を考え、自立に向けた援助 ②対象の生活の中で食事と排泄の関連を考えた援助 ③適切な排泄環境を整え、羞恥心に配慮した援助 ④健康障害による対象の苦悩を理解し、配慮した声かけや行動 ・排便障害がある対象への援助（デモンストレーション） グリセリン洗腸、高圧洗腸、摘便の実際	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
12	排泄援助技術 6) 導尿、膀胱内留置カテーテル法、洗浄	一時的導尿・持続的導尿・膀胱洗浄の援助方法について理解する	排尿障害がある対象への援助 一時的導尿、持続的導尿、膀胱洗浄	講義	基礎看護技術Ⅱ
13	排泄援助技術 7) 導尿の実際	一時的導尿の援助ができる	一時的導尿の援助 無菌的操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と抜去	演習	基礎看護技術Ⅱ
14	排泄援助技術 8) 膀胱内留置カテーテル法の実際	持続的導尿の援助ができる	持続的導尿の援助 無菌操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と固定および抜去、蓄尿バックの管理、採尿方法	演習	基礎看護技術Ⅱ
15	テスト				

授業科目	診療に伴う技術Ⅰ	学年	1 学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	<p>診断・治療に伴う援助は看護師の役割の一つである。対象の安全を確保し、安心して治療が受けられるための根拠ある確実な技術が求められる。対象の病状を把握し、症状軽減につなげるための援助技術は、効果的に実施できれば症状の改善に繋がるが、知識や技術が不十分であると対象の苦痛を伴う。原理・原則を想起しながら、確実な診断・治療に伴う援助技術の習得を目指す。</p> <p>本科目では、呼吸・循環を整える、安楽確保、創傷管理における援助技術について学ぶ。呼吸や循環は人間の生命を司る主要な機能であり、これらの障害は多大な苦痛と死を連想させるような不安を対象に抱かせる。援助にあたっては、常に対象に配慮し思いやりを持って対応する姿勢も学ぶ。また、疾患による症状や治療に伴う苦痛に対し、苦痛緩和、リラクゼーションの技術を用いて心地よい感覚を得ることは、対象の自己治癒力を高めることにつながる。創傷管理では創傷とその治療のメカニズムを理解し、観察に基づいた判断と治療のために必要な援助について学ぶ。</p>		
目的	呼吸・循環を整える、安楽確保、創傷管理における援助技術について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸・循環を整える技術の意義と援助方法を理解する 2.呼吸・循環を整える基礎的技術を身につける 3.安楽確保の技術の意義と援助方法を理解する 4.安楽確保のための技術を身につける 5.創傷管理技術の意義と援助方法を理解する 6.創傷管理技術を身につける 		
評価方法	筆記試験 技術試験（配点：必要な防護用具の選択・着脱、スタンダードプリコーションを含む 1割）		
使用テキスト	<p><系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ：医学書院</p> <p><系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ：医学書院</p> <p><系統看護学講座> 専門分野・基礎看護学4・臨床看護総論：医学書院</p>		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で20年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	呼吸・循環を整える技術 1) 酸素吸入法と人工呼吸療法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 酸素吸入療法の目的と方法を理解する 2. 人工呼吸療法の目的と仕組み、援助の実際を理解する 	<p>酸素吸入療法の目的と適応、酸素の投与方法の種類と特徴、手順・留意点・観察ポイント</p> <p>人工呼吸療法の目的、人工呼吸器の仕組み</p>	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	呼吸・循環を整える技術 2) 吸入、持続吸引	<ol style="list-style-type: none"> 1. 吸入の目的と方法を理解する 2. 胸腔ドレナージの目的と方法、援助の実際を理解する 	<p>吸入の目的と適応、方法と特徴、手順・留意点・観察ポイント</p> <p>胸腔ドレナージの目的と方法</p>	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	呼吸・循環を整える技術 3) 吸入の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 吸入の方法と援助を身につける 	<p>鼻カニューレ・フェイスマスクを用いた酸素吸入療法</p> <p>必要物品、中央配管アウトレットへの接続</p> <p>酸素流量の合わせ方、操作方法</p> <p>ジェットネブライザーを用いた気道内加湿法</p> <p>必要物品、吸入中の体位・呼吸の方法</p> <p>対象に分かりやすい説明や観察</p>	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	呼吸・循環を整える技術 4) 排痰ケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排痰ケアの目的と方法を理解する 	<p>排痰ケアの目的と適応、特徴、吸引の影響、手順・留意点・観察ポイント</p> <p>一時的吸引の目的、方法</p> <p>体位ドレナージ</p>	講義	基礎看護技術Ⅱ
5	呼吸・循環を整える技術 5) 一時的吸引の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一時的吸引の方法と援助を身につける 	<p>吸引モデルを使用した口腔・鼻腔内吸引と気管内吸引</p> <p>必要物品、中央配管アウトレットへの接続、吸引圧の設定、吸引の方法、気管内吸引時の無菌操作、対象への声かけや観察</p>	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
6	呼吸・循環を整える技術 6) 体温管理と末梢循環促進ケア	1. 体温調節機能に異常をきたした人への援助を理解する 2. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する	体温調節機能に異常をきたした人の援助の方法 末梢循環促進ケア 目的と適応、原理、看護、循環を促進するマッサージ	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
7	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 電法とリラクゼーション	電法の目的や心身へもたらす効果について理解する	電法とは、電法の種類、目的、心身への影響（効果）、根拠について	講義	基礎看護技術Ⅱ
8	苦痛の緩和・安楽確保の技術 2) 温電法、冷電法の実際	安楽確保のための技術を身につけることができる	温電法（湯たんぽ）、冷電法（氷枕、氷嚢、氷頭）の基本を確認しながら、作成・貼用の演習	演習	基礎看護技術Ⅱ
9	創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識	創傷管理の基礎知識について理解する	皮膚の構造や機能、創傷治癒過程や創傷管理の基礎的な知識について	講義	基礎看護技術Ⅱ
10	創傷管理技術 2) 創傷処置と褥瘡予防ケア	創傷処置、褥瘡予防ケアを理解する	創傷の処置や管理について、テープ固定、剥離の方法 褥瘡予防ケア	講義	基礎看護技術Ⅱ
11	感染防止の技術 1) 滅菌手袋の装着、無菌操作、ガウンテクニックの実際	無菌操作、滅菌手袋装着の実際を学ぶ	滅菌手袋装着と外し方、無菌操作 滅菌物の保管、滅菌物の取り扱い、無菌操作の留意事項について ガウンテクニックの基本、ガウンテクニック装着の確認 感染性廃棄物の取り扱い 使用済器具の感染防止の取り扱い 創部の消毒	演習	基礎看護技術Ⅰ
12	感染防止の技術 2) 滅菌手袋の装着、無菌操作、創部の消毒（スタンダードプリコーションを含む）の実際	無菌操作、滅菌手袋装着の技術を習得できる	滅菌手袋装着と外し方、無菌操作 滅菌物の保管、滅菌物の取り扱い、無菌操作の留意事項について 感染性廃棄物の取り扱い 使用済器具の感染防止の取り扱い 創部の消毒	技術試験	
13・14	感染防止の技術 3) 創傷処置と褥瘡予防ケアの実際	包帯法の援助技術を身につけることができる	包帯法（テープ・ガーゼ固定、巻軸帯、三角巾固定）の基本 無菌操作・創傷処置（手指衛生、個人防護用具の装着と外し方、無菌操作（中心静脈カテーテル挿入部の消毒処置）、ドレッシング材の貼付と剥がし方を対象の状態に応じて実施、褥瘡予防ケア	演習	基礎看護技術Ⅰ
15	テスト				

授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	学生も地域の中で暮らしている。自分の体験や経験から「暮らす」ということを、見つめなおし言語化して、理解していく過程を大切にする。さらに、学校がある地域のなかで、医療や福祉及び介護に関係する機関や事業所及び施設を調査し、その地域の現状を把握する。		
目的	人々の暮らしを理解し、地域の問題点と改善点を考える。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活する人々の「暮らし」を理解する。 2. 暮らしの基盤としての地域を理解する。 3. 地域の生活環境の健康への影響を考える。 4. 地域の現状を把握する。 		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座>地域・在宅看護の基盤：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考	
1	人々の暮らしの理解	人々の「暮らし」を理解する	人々の暮らしの理解 ・暮らしとは	講義・演習	課題：家族以外にインタビュー「どのような暮らしをしてきたか」	
2	「暮らし」の多様性	生活する人々の「暮らし」を知る	「暮らす」とは（発表・情報共有）	演習	インタビュー結果を発表する。様々な暮らしがあることを知る	
3	暮らしの基盤としての地域を理解	暮らしの基盤としての地域を知る	暮らしと地域のかかわり ・地域の定義 ・人々の暮らす地域の多様性 暮らしと地域を理解するための考え方 ・システム理論 ・クリティカルシンキング	講義・演習		
4			地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会	講義・演習		
5	地域の生活環境と健康	地域の生活環境の健康への影響を考える	暮らしと健康の関係 ・暮らしの中で生じる健康問題とその影響 ・家族の暮らしと健康 暮らしのなかで健康をとらえる ・健康の多様性 ・健康をとらえる看護の視点 暮らしの中で起きている社会問題	講義・演習		
6			地域の現状を知る	地域調査	演習	学校周辺の調査をする
7			地域調査（発表） ・地域で何が起きているかを知る	演習・講義		
8	テスト					

授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ	学年	1 学年
		単位	1
時期	1学年前期・後期	時間	30
科目設定理由	地域在宅看護論実習Ⅰでの学びを活かし、地域包括ケアシステムを理解する。地域に暮らす対象を理解することで必要とされる看護を考える。また、暮らしについてさまざまな衛生統計から現状を考える。地域で最期を迎えたいと願う人々の要望から「地域包括ケアシステム」が生れた。地域のシステムを支え守る仕組みについて現状を調査し、現状と課題について発表し情報を共有する。		
目的	地域の現状がわかり、地域包括ケアシステムを理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域在宅看護の対象者を理解する。 2. 地域在宅看護の対象としての家族を理解する。 3. 地域に暮らす対象を理解し看護を考える。 4. 地域に関する衛生統計を理解する。 5. さまざまな年代や状況の現状を衛生統計から理解する。 6. 地域包括ケアシステムを説明できる。 7. 地域における地域包括ケアシステムの現状について説明できる。 		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	<系統看護学講座>地域・在宅看護の基盤：医学書院		
参考図書	国民衛生の動向		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	地域在宅看護の対象者	地域在宅看護の対象者を理解する	①地域による多様性	講義	
2			②ライフステージによる多様性		
3	家族の理解	地域在宅看護の対象としての家族を理解する	・わが国における家族の現状 ・わが国における家族とその変遷	講義	
4	地域在宅看護の対象としての家族	地域在宅看護の対象としての家族を理解する	・家族の発達と課題解決の機能 ・家族と意思決定支援	講義・演習	
5	地域に暮らす対象の理解と看護	地域に暮らす対象を理解し看護を考える	・地域の特性の理解と看護 ・家族のライフステージの理解と看護 ・対象の理解とつながりをつくる看護 ・地域での暮らしにおける災害対策	講義・演習	
6	地域を理解するための衛生統計 人口の動向と健康問題	衛生統計を活用して地域の健康を考える 保健統計から人口の動向を知り、健康問題を考える	地域の視点と看護・衛生統計の主要指標 保健統計（人口の動向と健康問題）	講義・演習	
7	母子保健・高齢者保健 成人保健	母子・高齢者・成人をめぐる衛生統計から現状を考える	母子保健 母子をめぐる衛生統計 高齢者保健 高齢者をめぐる衛生統計 成人保健 成人をめぐる衛生統計 産業保健	講義・演習	
8	障害者保健 介護保険	障害者・介護をめぐる衛生統計から現状を考える	介護保険 介護をめぐる衛生統計 障害者保健 障害者をめぐる衛生統計	講義・演習	
9	行政の役割・保健師の役割	行政の役割を述べられる 保健師の役割を述べられる	行政の取組み（保健所・保健センター）保健師の役割	講義・演習	
10	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを説明できる	地域包括ケアシステム 地域の取組み	講義・演習	
11		地域の取り組みについて調査できる	調査及びまとめ	講義・演習	郡山市内の担当 地域を調査しまとめる
12					
13		地域の取り組みについて発表できる	発表・情報共有	講義・演習	
14					
15	テスト				

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	前期		45時間
科目設定理由	<p>看護の対象や療養の場は変化しており、看護師には対象を生活者として捉え看護サービスを提供する役割が求められている。また、看護の対象となる人々は多様性や複雑性が増している。</p> <p>その人の暮らしと看護の役割を考える実習は、入学後間もない6月にこれからの学習のイメージがつけられるよう計画した。地域で対象の暮らしを見ることで様々な暮らしを知る、あらゆる生活の場に看護の役割があることを考えるために設定された。</p> <p>健康を守るためには、看護師だけではなく多職種が関わっている。そのため、色々な職種の方からそれぞれの役割を聞くことで、人々の健康を支える役割を考える。</p> <p>病棟に2日間行き、対象とコミュニケーションを図ることで入院前はどのような生活をしてきたのか、退院後はどのような生活を望んでいるのかを知る。自分と家族以外の生活を知ることにつながる。</p> <p>地域に2日間行き、様々な生活の場で暮らしている対象と家族に関わることで、看護の対象となる人々はそれぞれの暮らしがあり、暮らしの中で健康を支える役割があることを考える。</p> <p>様々な方々とコミュニケーションを図り、それぞれの暮らしを知ることで健康を支える必要性が地域の中にあること、その中で看護師の役割があることを考える。</p>		
目的	地域における様々な暮らしを理解し、看護師の役割を考える。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の生活の実際を知る。 2. 地域で暮らす人々の生活に関わっている職種について考えることができる。 3. 相手を気遣う姿勢を持つことができる。 4. 相手に関心を向けてコミュニケーションを図ることができる 5. 実習チームの一員として目的目標を意識し行動できる。 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	看護師の役割 実習施設の特徴		
実習記録	地域・在宅看護論実習Ⅰ記録用紙①：生活を支える職種とその役割 地域・在宅看護論実習Ⅰ記録用紙②：生活の多様性 地域・在宅看護論実習Ⅰ記録用紙③：日々の実習記録 学びのレポート、評価表		
カンファレンス	病棟での看護師の役割① 対象とのコミュニケーションからの学び② 地域で対象はどのように暮らしているか③ 地域で暮らす対象への多職種の役割と看護師の役割④ 地域で対象はどのような暮らしをしているか、健康を支える看護師の役割は何か		

実習計画

	実習内容
1	オリエンテーション 多職種の役割 病院見学
2	病棟実習 カンファレンス①
3	病棟実習 カンファレンス②
4	地域実習 カンファレンス③
5	地域実習 カンファレンス④
6	グループでの学びを共有する 実習評価

実習場所：病棟実習：太田西ノ内病院又は太田熱海病院

：地域実習：11カ所に分かれて実習

・太田訪問看護ステーション・太田熱海訪問看護ステーション・老人保健施設桔梗、通所リハビリセンター・玉川デイサービスセンター・熱海通所リハビリテーションセンター・やすらぎ会いがらし内科外科クリニック（デイケアまたは訪問看護ステーション）・ナースステーションいぐばい・ナースステーション緑樹の園さくら木・郡山中央地域包括支援センター・熱海地域包括支援センター

授業科目	成人看護学実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期	時間	45
科目設定理由	<p>少子高齢化が進む中、療養の場は医療機関に限らず地域や在宅へと広がっている。住み慣れた地域でよりよい暮らしを送るためには、その人がもてる力を発揮し健康管理していくことが必要である。成人期の対象は家庭や職場などの地域社会で様々な役割を担い、多様な場で暮らしを営んでいる。そのため、疾患を発症しても自分の生活や役割を優先しがちである。しかし、成人期の対象は自己管理能力が高く、自己決定する力を持っているため、看護ではその力を十分に発揮できるように支援していく。</p> <p>本実習では、成人期にある対象の健康を支える看護の実際を学ぶ。成人期にある対象は生活習慣病や職業性疾患などを有する危険性が高い。そのため、地域や職場ではどのような健康支援が行われているか、見学や体験を通して学ぶ。予防医学センターでは、職場の健診や人間ドッグの様子を見学し、疾患の早期発見と健康維持・増進に向けた生活指導の実際を学ぶ。運動指導室では、糖尿病の治療の一つである運動療法を見学し、指導を受ける対象の様子や運動の効果を知る。現在の医療は病院完結ではなく、地域で暮らしながら治療を継続している人も多い。PFM室と入院案内では入院から退院に向けた一連の流れを見学し、地域と病院をつなぐ看護の実際を学ぶ。そして、外来では、生活の中で適切な療養管理ができるように疾患をもつ対象やその家族を支える看護の実際を学ぶ。本実習を通して、成人期にある対象の多様な暮らしを知り、その中でどのような健康支援が行われているかを学ぶ。</p> <p>1年生は6月の地域・在宅看護論実習Ⅰで、今まで意識していなかった自分と家族以外の生活を知り、地域での健康を支える看護師の役割を学んだ。戴帽式を終え、看護を学ぶ意欲が高まっている時期の実習であり、学生自身が看護師になるという意志を再確認し、看護の対象となる方の暮らしに目を向け看護を考える力を育ててほしい。</p>		
目的	成人期にある対象の健康支援の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす成人の生活の実際を知る 2. 成人期にある人の健康維持に向けた取り組みにおける看護の役割を理解する 3. 相手を気遣う姿勢を持ち行動できる 4. 身近な人とコミュニケーションを図ることができる 5. 実習チームの一員として目的目標を理解し行動できる 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	<p>成人期の成長発達（身体的・心理的・社会的特徴、発達段階）</p> <p>生活習慣病、ゼロ次～三次予防、特定健康診査と特定保健指導</p> <p>運動療法、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル、外来看護師の役割、地域包括ケアシステム</p>		
実習記録	<p>共通記録用紙1：わたしの実習での取り組み</p> <p>共通記録用紙3：対象理解用紙</p> <p>成人看護学実習Ⅰ記録用紙①：行動記録</p> <p>成人看護学実習Ⅰ記録用紙②：生活と健康を支える看護</p> <p>学びのレポート、評価表</p>		
カンファレンス	<p>成人期にある対象の健康維持に向けた取り組み（1～5日目）</p> <p>成人期にある対象の特徴と健康を支える看護とは（最終日）</p>		

実習計画

	場所				実習内容
	1G	2G	3G	4G	
1	予防医学センター	PFM室/入院案内	外来②（外科）	外来①（内科）	それぞれの場所で1日ずつ実習する。 外来①は内科、外来②は内科と外科のどちらかで実習する。 入院案内はPFM室実習の中で時間を決めて実習する。 運動指導室実習は、15時30分から学内で1日の振り返りや学びのまとめを行う。
2	運動指導室	予防医学センター	PFM室/入院案内	外来②（内科）	
3	外来①（内科）	運動指導室	予防医学センター	PFM室/入院案内	
4	外来②（外科）	外来①（内科）	運動指導室	予防医学センター	
5	PFM室/入院案内	外来②（外科）	外来①（内科）	運動指導室	
6	実習のまとめ、評価（学内）				

実習場所：一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院（運動指導室、内科外来、外科外来、PFM室/入院案内）

一般財団法人太田総合病院附属 太田熱海病院（予防医学センター）

授業科目	老年看護学実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期		45
科目設定理由	<p>老年期はライフサイクルの最終段階であり、65歳以上の時期にある人を高齢者としている。高齢者は、これまでの長い人生の中で築き上げてきた生活習慣や価値観、信条がある存在であり、その生活は多様である。ライフイベントなどに適応し、その人なりの知恵を身につけながら成長発達している存在でもある。加齢の変化や疾病などにより生活機能に何かしらの影響を受けながらも、自分なりに工夫しながら日常生活を送っている。実習では実際に高齢者に関わり、高齢者の特徴や健康とその支援の実際について学ぶ。併せて、人生経験が豊富な高齢者への関わりを通して、人生の先輩として尊重した態度を養う。</p> <p>本実習は、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護付き有料老人ホーム及び小規模多機能型居宅介護で学ぶ。介護老人保健施設は病院から自宅へ戻るための在宅復帰を支援する場である。介護老人福祉施設は、常時介護を必要とする方への生活援助を行う場である。小規模多機能型居宅介護は、介護を必要とする高齢者が状況やニーズによって「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを組み合わせて利用しながら在宅生活が送れるよう支援する場である。介護付有料老人ホームは、介護等のサービスが付いた高齢者向けの居宅施設である。高齢者の多様な健康状態やニーズに応じてサービスを利用しながら生活する高齢者の健康支援の実際を学ぶ。高齢者がその人らしく生き生きとした生活が送れるよう、多職種が連携して支援している。その実際を知り、職種の役割や関わりを理由を考えていくと共に、高齢者の健康支援に関わる看護の役割を学ぶ。多職種が協働している実際から、自分も実習チームの一員としての役割を考え行動する姿勢を身につけていく。</p>		
目的	老年期にある対象の暮らしに応じた健康支援の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす高齢者の生活の実際を知る 2. 老年期にある対象の生活と健康の維持に向けた取り組みにおける看護の役割を理解する 3. 相手を気遣う姿勢を持ち行動できる 4. 身近な人とのコミュニケーションを図ることができる 5. 実習チームの一員として目的目標を理解し行動できる 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	<p>老年期の発達課題、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 高齢者及び認知症高齢者とのコミュニケーション技術 地域包括ケアシステムについて 介護保険サービスの種類 施設サービス及び地域密着型サービスの概要と職員配置</p>		
実習記録	<p>共通記録用紙1：わたしの実習での取り組み 共通記録用紙3：対象理解用紙 老年看護学実習Ⅰ記録用紙①：行動記録 老年看護学実習Ⅰ記録用紙②：基礎情報シート 老年看護学実習Ⅰ記録用紙③：高齢者の生活の実際を理解 老年看護学実習Ⅰ記録用紙④：生活と健康を支える職種と役割 学びのレポート 評価表</p>		
カンファレンス	<p>高齢者の日常生活と安全について 高齢者の特徴と生活について 高齢者の家族への関わりについて 高齢者の健康を支える人々について 高齢者の暮らしと健康について</p>		

実習計画

	実習内容
1	
2	下記の実習施設のうち1施設で実習
3	日常生活の援助参加
4	コミュニケーション
5	レクリエーション等の見学・参加
6	学内において、学びの共有及び実習のまとめ 実習評価

実習場所：ナーシングケアセンターさくら木 小規模多機能型居宅介護

むつき会 介護付有料老人ホーム 雅 / 小規模多機能型居宅介護 結

特別養護老人ホーム あたみホーム / 玉川ホーム

介護老人保健施設 桔梗

授業科目	小児看護学実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期		45
科目設定理由	<p>子どもは常に成長発達し続けており、人間の一生の中で身体的・精神的・社会的に最も変化の激しい時期であり、成長発達に関する理解は不可欠である。子どもの身体は、大人と比べて単に小さいだけでなく、機能自体に未熟性がある。</p> <p>また、運動、知能、コミュニケーション、情緒・社会性などの諸機能は小児期に著しく発達するため、発達段階の特徴を理解するとともに人の生涯としてプロセスを捉える視点が重要である。小児看護においては、障がいがあるなしに関わらず、子どもがより健康な成長・発達をとげられるよう医療機関だけでなく、保育園や学校、地域社会においてあらゆる健康レベルの子どもと家族ニーズを満たすような包括的ケアが求められている。</p> <p>本実習では、地域で生活する子どもの成長発達支援の実際を保育園、病棟で学ぶ。保育園実習を通して、子ども（乳幼児）の日常生活の様子を観察し、子どもの成長発達を捉えられるようにする。また、子どもにとっての「遊び」の意味や重要性を発達段階から考える。さらに保育士の子どもへの関わりの実際を通して、健やかな成長発達に向けてどのように支援されているのかを学ぶ。病棟実習では、子どもが健康状態の変化により、入院という非日常的な環境の中で過ごすこととなる。治療・処置・検査に臨む場であり、子どもが安全かつ安心して生活できる場を確保する必要がある。発達段階に合わせてどのように環境が整えられているのか、一般病棟とは異なる小児病棟の特徴を学ぶ。また、看護師と共に行動し、子どもと家族の関わりを見学することで、どのように成長発達および健康が支援されているのかを学ぶ。</p>		
目的	成長発達する小児の成長発達支援の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす子どもの生活の実際を知る。 2. 子どもの健やかな成長発達支援における看護の役割を理解する。 3. 相手を気遣う姿勢を持ち行動できる。 4. 身近な人とコミュニケーションを図ることができる。 5. 実習チームの一員として目的目標を理解し行動できる。 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	運動機能、情緒・社会的機能の発達、コミュニケーション機能の発達 乳幼児の日常生活と世話 遊びの発達と社会性		
実習記録	小児看護学実習Ⅰ記録用紙①：行動記録用紙 小児看護学実習Ⅰ記録用紙②：保育園実習記録1、2 小児看護学実習Ⅰ記録用紙③：病棟実習記録用紙 学びのレポート 評価表		
カンファレンス	発達段階に応じた基本的な生活習慣の獲得について（保育園） 保育士がどのように子どもに関わっていたか、意図を考える（保育園） 子どもにとっての遊びの意味を発達段階から考える（保育園） 入院している子どもと家族の生活と健康支援について（病棟） 子どもの健やかな成長発達を支えるために大切なこと（最終日） ＊学内カンファレンスでは、各グループで情報共有し、年齢別の生活の違いや保育士の関りについて考え、自己学習を重ねて翌日の実習へ活かす		

実習計画

	実習場所				内容
	1 G	2 G	3 G	4 G	
1	病棟	保育園 (桔梗)	保育園 (桔梗)	保育園 (熱海)	保育園、病棟では見学や体験を通して、成長発達する子どもを理解し、生活の実際を知る
2	保育園 (桔梗)	病棟	保育園 (桔梗)	保育園 (熱海)	
3	保育園(桔梗)	保育園 学内まとめ	病棟	保育園 学内まとめ	
4	保育園 (桔梗)	保育園 (桔梗)	保育園 学内まとめ	病棟	
5	保育園 学内まとめ	保育園 (桔梗)	保育園 (桔梗)	保育園 (熱海)	
6	実習のまとめ、評価(学内)				

実習場所：桔梗保育園、熱海桔梗保育園、太田西ノ内病院小児科病棟

実習時間：1単位45時間中、臨地実習30時間、学内実習15時間

授業科目	母性看護学概論	学年	1 学年
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	人間のライフサイクルにおける母性・父性の特徴を捉え、その機能が健全に発揮できるように、人間の一生を通して性という側面から対象と家族を支援する看護を学ぶ。母性看護学概論では、将来子どもを産み育てる女性、妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、その役割を終えた女性が各機能をその人なりに十分に発揮できるようにするための知識や技術を学習する。さらに、親あるいは家族としての役割を獲得する過程への援助にも関わる。また、看護の焦点である生殖過程には両性が関与してくる。母性の機能を最大限発揮するためには女性のみならず、産まれてくる子、そして父親、兄弟、その家族を含めた家族中心の視点や対象の様々な側面、その家族が住む地域社会、それらが関連し合い、健康にどのように影響するか理解し、全人的視点に立った看護についても考える。		
目的	ウィメンズヘルスの概念を理解し、母性を取り巻く社会の現状から母性看護の目的及び健康上の課題を理解する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念及びウィメンズヘルスの概念を理解し、母性看護の意義と役割を理解する。 2. セクシャリティの概念及び人間の性の特徴を理解する。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念の発達過程と意味を理解する。 4. 母性看護の特徴を理解し、ウェルネス志向で対象と関わる意味を理解する。 		
評価方法	筆記試験、課題		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野> 母性看護学1・母性看護学概論：医学書院 <系統看護学講座専門分野> 母性看護学2・母性看護学各論：医学書院 <系統看護学講座専門分野> 成人看護学9・女性生殖器：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	母性とは	母性看護に関わる様々な概念について学ぶ	母性の概念 親になるということ 女性のライフサイクルと母性 家族機能と発達課題	講義	
2	母子関係と家族の発達	母子関係の形成とその特徴について学ぶ。	愛着形成 母子相互作用と母子関係の形成 母性意識の発達過程 母親役割獲得過程	講義	
3	母性看護の目的と特徴	母性看護に関わる様々な職業と看護の場について学び、その目的と内容について理解する。	母性看護の目的 母性看護の変遷 母性看護の特徴 母性看護に関わる職種と看護の場	講義	
4	母性看護に必要な看護技術	ウェルネス志向による女性のヘルスアセスメントと支援について考え、母性看護の特徴について学ぶ。	ウェルネス志向による女性のヘルスアセスメントと支援 健康教育と保健相談 女性の意思決定を支える看護技術 親になる過程および家族機能を促す看護技術 女性を中心としたケア (Women-centered Care)	講義	
5	生殖にかかわる看護	出生前からのリプロダクティブヘルスケアと実際について考える。	妊孕性を支える看護 ・出生前からのリプロダクティブヘルスケア ・不妊治療の現状と課題 ・生殖補助医療と課題 ・遺伝相談の実際と課題 (出生前診断、着床前診断)	講義	健康支援論Ⅰ (10回目) 関連講義
6	女性性を支える看護	女性性を支える看護について考える。	女性性を支える看護 女性生殖器疾患による生殖機能障害を受けた女性を支える ボディイメージの変容を体験している女性を支える	講義	
7	女性の生涯にわたる健康教育	リプロダクティブヘルスの視点からみた母性のライフサイクル各期の健康課題と健康教育の実際を学ぶ。	リプロダクティブヘルスの視点からみた母性のライフサイクル各期の健康課題と健康教育の実際 ・性教育 ・リプロダクティブヘルス/ライツの啓蒙活動	講義	健康支援論Ⅰ (12回目) 関連講義 外部講師 課題：レポート提出あり
8	テスト				

授業科目	母性看護学実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期	時間	45
科目設定理由	<p>母性看護とは、女性の生涯にわたるリプロダクティブヘルスの水準を維持・増進し、母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するために、対象者の持てる力を引き出せるように促し、女性および家族の生活を整える援助過程である。看護の対象である個人の健全な発達や課題、さらに、その家族を含めた関わりに認識を広げて、看護実践に臨めるように関連させていくことである。</p> <p>母性看護学実習Ⅰでは、地域で生活する母性看護の対象となるひとの環境を知り、どのように健康を支えられているのかを学ぶ。</p> <p>子育て支援施設では、地域で子育てをする母子の特徴とその支援を学ぶ。医療施設では、外来および病棟で対象となるあらゆる世代の女性、妊婦・褥婦とその家族、新生児の理解と健康支援を学ぶ。また、対象と支援者の関わりからウイメンズヘルスの実際を学ぶ。子ども総合支援センターでは、地域での包括的な子育て支援の実際を学ぶ。それぞれの施設で気づき、学んだことを学生同士で共有し、様々な視点から子どもを生み育てる人の特徴と支援を学ぶ。</p>		
目的	子どもを生み育てる人の健康支援の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを生み育てる人の環境の実際を知る。 2. 子どもを生み育てる人への健康支援における看護の役割について考えることができる 3. 相手を気遣う姿勢を持ち行動できる 4. 身近な人とコミュニケーションを図ることができる 5. 実習チームの一員として目的目標を理解し行動できる 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市の子育て支援サービス ・妊婦健診、産後健診、産後ケア ・こどもとの遊び（わらべうた、手遊び） 		
実習記録	<p>共通実習記録用紙1：わたしの実習での取り組み</p> <p>共通実習記録用紙2：行動記録用紙</p> <p>共通実習記録用紙3：対象理解用紙</p> <p>母性看護学実習Ⅰ記録用紙1：母性看護の対象となる人々の特徴</p> <p>母性看護学実習Ⅰ記録用紙2：母性看護の対象となる人々を支える人々とその役割</p> <p>学びのレポート、評価表</p>		
カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での暮らす母子の生活を考える（実習4日～5日目） ・母性看護の対象の特徴と対象の健康を守る支援（6日目） 		

実習計画：（2名×8グループで実習する）

	1G	2G	3G	4G	5G	6G	7G	8G	
1	地域子育て支援センター		太田西ノ内 4C病棟	太田西ノ内 産婦人科外来	太田西ノ内 4C病棟	プチママン			
2	すずき レディース クリニック (病棟2日) (外来2日)	太田西ノ内 産婦人科外来	地域子育て支援センター						
3		プチママン		太田西ノ内 4C病棟	地域子育て支援センター		太田西ノ内 産婦人科外来	太田西ノ内 4C病棟	
4						太田西ノ内 産婦人科外来		地域子育て支援センター	
5		太田西ノ内 4C病棟	太田西ノ内 産婦人科外来	ニコニコ こども館		太田西ノ内 4C病棟		太田西ノ内 産婦人科外来	
6		学内実習（まとめ・実習評価）							

*実習グループ人数等により、ローテーション計画の変更あり

実習場所： 一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院（4C病棟、産婦人科外来）

郡山市こども総合支援センター（ニコニコこども館）

郡山市地域子育て支援センター（東部・西部・南部・北部）

NPO法人地域子育て支援コミュニティ プチママン

すずきレディースクリニック

授業科目	精神看護学実習Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期		45
科目設定理由	<p>近年、日本の精神科医療をとりまく状況は急速に変化し、病院医療から地域・在宅中心となり、こころの健康をいかに維持し増進していくかといった精神保健予防、早期発見・早期介入、地域移行、地域生活支援の強化とケアの重要性が高まっている。精神看護では、人間をそれぞれ独自の人生を歩む生活者として捉え連続性を持って理解し、様々な成長発達段階にある人々が、主体的に生活できるようこころの健康を支援する。また、地域生活を支える上で多職種との連携・協働が重要である。</p> <p>精神看護学実習Ⅰでは、地域生活支援施設や精神科病院において、地域で暮らす人のこころの健康維持や回復支援の実際を学ぶ。様々な役割を担いながら地域で暮らす対象と関わり、多様な場での生活や暮らしの個性を理解する。活動や就労の場で人とのつながりを持ちながら地域で暮らす対象と共に過ごし話を聞く。その人らしさ、生きにくさとそれぞれが持つ強みへの気づきから、こころの健康の維持、回復に向けた本人の取り組みを知る。精神科病院や地域生活支援施設が行っている包括的な支援の実際を学ぶ。精神保健・医療・福祉の支援者が、対象のこころの健康の維持、回復に向け関わる姿勢や活動の実際、多職種とその連携を理解する。精神の一次・二次・三次予防の実際を学び、看護の役割を考える。対象と時間を共にするなかで、その人や暮らしに関心を寄せ、相手の話を聞く姿勢、自分が感じたことや疑問に思ったことを大事にし、自ら学ぶ力を身につける。</p>		
目的	こころの健康支援の実際を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康を保ちながら暮らす人々の生活の実際を知る 2. こころの健康の維持に向けた取り組みにおける看護の役割を理解する 3. 相手を気遣う姿勢を持ち行動できる 4. 身近な人とコミュニケーションを図ることができる 5. 実習チームの一員として目的目標を意識し行動できる。 		
評価方法	実習評価表に基づく総合評価		
事前学習	精神の健康の定義 ストレスと健康の危機 精神保健活動の予防概念 ライフサイクルとアイデンティティ 精神保健福祉法・障害者総合支援法 実習施設の特徴		
実習記録	精神看護学実習Ⅰ記録用紙①：行動記録 精神看護学実習Ⅰ記録用紙②：精神科専門機関 精神看護学実習Ⅰ記録用紙③：地域生活支援施設 精神看護学実習Ⅰ記録用紙④：関わるの場面 学びのレポート 評価表		
カンファレンス	こころの健康を支えるための支援について学んだこと（2日目） こころの健康を保ちながら暮らすために大切なこと（6日目）		

実習計画

	場所	内容
1	午前：学内で実習にむけた学習	学内では精神保健予防、地域包括支援の学習を行う。
	午後：あさかホスピタル	実習施設の概要を知り、こころの健康を支えるため支援を学ぶ。
2	あさかホスピタル	こころの健康を支えるための包括的支援と精神保健医療福祉、看護の役割を学ぶ。
3	すがのクリニック	利用者、スタッフと共に行動。活動に参加しコミュニケーションを図り地域での暮らしを知る。
4	郡山コスモス会	利用者、スタッフと共に行動。活動に参加しコミュニケーションを図り地域での暮らしを知る。
5	アイ・キャンまたはあさかの里	スタッフと共に行動。利用者として活動に参加しコミュニケーションを図り地域での暮らしを知る。
6	学内：実習のまとめ 実習評価	グループでの学びを共有し発表する。評価を受け到達度を確認する。

*実習45時間中、臨地実習35時間、学内実習10時間とする。

実習場所：あさかホスピタル

すがのクリニック、郡山コスモス会

NPO法人アイ・キャン、または社会福祉法人あさかの里

授業科目	成長発達支援論	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	<p>看護において、生物学や解剖生理学的な視点、心理学的な視点に加え、社会における生活者として人間をとらえる。生活は、環境や社会から相互に影響を受けている。暮らしは文化を形成し、文化を継承しながらまた、慣習としながらその中で人は生きている。人は生活の中で人間として生まれ、その土地の社会性を身につけその地域社会に適応した行動を求められていく。そのため、人間の成長発達を総合力・経験・智恵などの成熟という視点から総合的に捉え、人間を可能性を持ち、受精から死に至るまで自己実現に向かって成長発達しつづける存在としてとらえることが対象理解にもつながる。</p> <p>本単元では人間の成長発達にそって、形態的成長と機能的発達、心理・社会的発達について学ぶ。</p>		
目的	人間の成長発達にそって、形態的成長と機能的発達、心理・社会的発達について学ぶ。		
目標	<p>1.成長発達しつづける存在としての人間について理解する。</p> <p>2.ライフサイクルと自我の発達について理解する。</p> <p>3.各発達段階における形態的成長と機能的発達、心理・社会的発達を理解する。</p> <p>4.各発達段階における家族を理解する。</p>		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野>成人看護学[1]成人看護学概論：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野>老年看護学：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野>小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野>母性看護学[1]母性看護学概論：医学書院</p> <p><系統看護学講座専門分野>精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院</p>		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		
担当教員	専任教員	看護師として附属病院で18年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	成長発達しつづける存在としての人間	成長発達しつづける存在としての人間について理解する	<p>発達の原則</p> <p>心のはたらき</p> <p>世代を通してつながるいのち</p> <p>ライフサイクル（人生周期）という考え方</p>	講義	
2	ライフサイクルと自我の発達	ライフサイクルと自我の発達について理解する	<p>自我</p> <p>自我の構造</p> <p>自我同一性</p> <p>ライフサイクルとアイデンティティ</p> <p>自我の発達段階</p> <p>フロイトの精神力動理論</p> <p>エリクソンの漸成的発達図式</p>	講義	
3	人間の成長発達① ・妊娠 ・胎芽期 ・胎児期	胎生期・妊娠期間の成長発達について理解する	<p>胎児・妊娠期間の母体の変化</p> <p>妊娠の成立と出産</p> <p>胎生期・妊娠期間の家族の機能</p>	講義	
4	人間の成長発達② ・新生児	新生児の成長発達について理解する	<p>新生児の身体の発達</p> <p>新生児の身体所見と観察</p> <p>新生児の心理、社会的発達</p> <p>愛着形成（ボウルビー）</p> <p>新生児期の家族の機能</p>	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	人間の成長発達③ ・乳児期	乳児期の成長発達について理解する	成長と発達の原則 成長・発達に影響する因子（遺伝的因子、環境的因子） 成長、発達の評価 乳児期の身体の発達 形態的、機能的特徴 コミュニケーション機能 乳児期の心理、社会的発達 愛着形成、情緒の分化、気質 乳児期の発達課題 乳児期の家族の機能	講義	
6	人間の成長発達④ ・幼児期前期	幼児期前期の成長発達について理解する	幼児期前期の身体の発達 形態的、機能的特徴 コミュニケーション機能 幼児期前期の心理、社会的発達 認知機能の発達（ピアジェ） 感情の分化 遊びの発達 幼児期前期の発達課題 幼児期前期の家族の機能	講義	
7	人間の成長発達⑤ ・幼児期後期	幼児期後期の成長発達について理解する	幼児期後期の身体の発達 形態的、機能的特徴 コミュニケーション機能 幼児期後期の心理、社会的発達 認知機能の発達（ピアジェ） 感情の分化 遊びの発達 幼児期後期の発達課題 幼児期後期の家族の機能	講義	
8	人間の成長発達⑥ ・学童期	学童期の成長発達について理解する	学童期の身体の発達 学童期の心理、社会的発達 認知機能の発達（ピアジェ） 社会性の発達 日常生活の問題 自律へ向けての関わり 学童期の発達課題 学童期の家族の機能	講義	
9	人間の成長発達⑦ ・思春期	思春期の成長発達について理解する	思春期の身体の発達 思春期の性成熟の進行と第二性徴の出現 思春期の心理、社会的発達 思春期の自我発達と社会性の発達 思春期の発達課題 思春期の家族の機能	講義	
10	人間の成長発達⑧ ・青年期	青年期の成長発達について理解する	青年期の身体の発達 成長のスパート、発達加速現象 青年期の心理、社会的発達 青年期の自我発達と社会性の発達 青年期の発達課題 青年期の家族の機能	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
11	人間の成長発達⑨ ・前成人期	前成人期の成長発達について理解する	前成人期の身体の発達 身体的変化の特徴 前成人期の心理、社会的発達 生活とは何か 働いて生活を営むこと 生活の場 前成人期の発達課題 エリクソン、ハヴィガースト 前成人期の家族の機能	講義	
12	人間の成長発達⑩ ・成人期	成人期の成長発達について理解する	成人期の身体の発達 身体的変化の特徴 成人期の心理、社会的発達 子育てと仕事 生殖性の獲得と発揮 成人期の発達課題 エリクソン、ハヴィガースト 成人期の家族の機能	講義	
13	人間の成長発達⑪ ・老年期 加齢による変化	加齢による身体的・心理的・社会的変化を学ぶ	高齢者の定義 加齢による身体的変化の特徴 加齢による精神・心理的变化 知的能力の変化 記憶力の変化 情緒の変化 加齢による社会的変化 職業からの引退、再就職 生活パターンの変化	講義	
14	人間の成長発達⑫ ・老年期 老化について	老いを生きるということについて考える	加齢と老化 老化の特徴 老化学説 生理的老化と病的老化 老いを生きるということ 老年期の発達課題 エリクソン ・ベック ・ハヴィーガースト	講義	
15	テスト				

授業科目	健康支援論Ⅰ(子どもと女性)	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	<p>看護は人々の健康に大きく関わる。今日の健康観は、病気と健康を対立して捉えるのではなく、自分の能力が十分発揮できる状態から不調をきたしている状態までの連続的なものとしてとらえられている。そして、たとえ疾患や障害があろうとも、それらと共存し、その人の生き方を尊重して自己現実のために努力をし、より高いレベルの生活機能を目指すその姿勢・態度を健康というように変化している。看護はその可能性を伸ばし、強化するような働きかけを行う必要があり疾患や障害をうけた後に関わるだけではない。健康状態で生活するために健康を維持・増進し疾病の予防していくことが必要である。健康支援論Ⅰでは、健康を概念から理解し、健康とはどういう状態か、健康な生活とは何かを学ぶ。人が生まれ新生児から成長していく過程、そして女性の生涯のなかで、その人のステージに沿った健康を理解し、その人に合った看護を考えていく。健康観の多様性を理解し、その人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。</p>		
目的	健康の概念とその人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康について理解する 2.ヘルスプロモーションを理解する 3.新生児の生理的経過を理解する 4.乳幼児の生活を理解する 5.学童期の健康課題を理解する 6.思春期の心身の変化を理解する 7.女性の健康を守る方法を理解する 8.地域で行われる、母子を支援する仕組みを理解する 9.地域が行う健康支援を理解する 		
評価方法	筆記試験、課題		
使用テキスト	<p><系統看護学講座専門分野>小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>母性看護学[1]母性看護学概論／母性看護学各論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>成人看護学9・女性生殖器：医学書院</p>		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		
担当教員	専任教員	看護師として附属病院で12年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	健康の概念	健康とは何かを理解する	健康とは何か 健康の定義 健康の定義 権利としての健康 世界保健機関憲章、日本国憲法、世界人権宣言	講義	
2	健康の概念	健康観の変化を理解する	プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション 健康の拡大 健康でない状態 障害とはなにか 健康と生活 ICF 疾患と障害の予防（1次、2次、3次）	講義	
3	ヘルスプロモーションと看護	<ol style="list-style-type: none"> 1.ヘルスプロモーションとはについて考えることができる 2.ヘルスプロモーションの目標が分かる 3.ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法が分かる 	ヘルスプロモーションとは ヘルスプロモーション活動の原則 ヘルスプロモーション活動の方法	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
4	新生児・乳児期の生活と看護	1. 乳児期の発達、生活を理解する 2. 乳児期の子どもへの育児支援を理解する	日常生活の世話（排泄、食事（アレルギー、衣服、睡眠、SIDS） 遊びの支援 事故防止 育児支援	講義	
5	幼児期の生活と看護	幼児期のコミュニケーションの発達、基本的生活習慣の習得過程など幼児に生活と看護を理解する	コミュニケーション しつけ 日常生活の自立に向けた関わり（排泄（夜尿、退行現象）、食事（偏食や遊び食べ）、睡眠、衣服、清潔（清潔行動の習慣、う歯の予防） 遊びの発達と社会性 事故防止 生活習慣の改善	講義	
6	学童期・思春期の生活と看護	1. 学童期の成長発達に影響する要因、起こりやすい健康問題を学童を取り巻く諸環境から理解する 2. 思春期における性成熟の進行と第二性徴出現の関連が理解できる	社会性の発達 日常生活の問題 第二性徴・自我の発達 不登校、いじめ、不適応行動 生活習慣病の予防（食生活の乱れ、肥満、やせ、運動不足、夜型の生活）	講義	
7	子どもにみられやすい心身の問題	子どもの生活の場におけるメンタルヘルスと支援について学ぶ	子どもにみられやすい心身の問題 （虐待、ネグレクト、自傷行為、うつ病、依存他） 愛着のパターンと人間関係 非道処遇が子どもの成長・発達に及ぼす影響 トラウマによるストレス反応の特徴 「安全である」と感じることの重要性	講義	
8	ジェンダーと健康 ウィメンズヘルスの考え方	1. 人間の性の多様性と支援について学ぶ 2. ウィメンズヘルスについて考える	人間の性に関する様々な概念 ・身体的性別、性自認、性指向、性表現、性に対する医療的介入 ・性分化疾患 ・性違和 児童・思春期における支援 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて ・ウィメンズヘルスとは	講義	
9	ライフサイクルにおける女性生殖器の機能と健康課題	1. ライフサイクルにおける女性生殖器の機能と健康課題について考える	思春期にみられる身体的変化と健康課題 月経の仕組み 1) メカニズムと正常な月経 初経から閉経まで 2) 健康課題 月経困難症と月経前症候群 更年期の特徴と健康課題	講義	
10	母子の健康に影響する因子	1. 母子の健康に影響する因子と健康課題について理解する 2. 性感染症と母子への影響について理解する	母子の健康に影響する因子 嗜好品、就労（女性の就労支援） 性感染症の現状とその看護 母子感染症 プレコンセプションケア	講義	
11	女性の健康を守る看護	1. 人工妊娠中絶と性暴力被害にあった女性への看護について理解する 2. 受胎の調節を行う意味を理解する。	人工妊娠中絶の実際と看護 性暴力・DVの実際と看護 受胎調節（避妊）	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
12	女性の健康を守るための健康教育	女性への健康教育を考える	人工妊娠中絶、DVなど現代女性の現状を理解し、女性の健康を守るために行う健康教育を考え、意見交換する。	講義・GW	課題
13	母子を支える地域の役割	地域で行われていることと女性への支援を理解する	1, 地域での母子の生活とその支援 1) 地域での育児支援と保健相談 2) 母子の生活を支える社会資源 母子健康包括支援事業 母子保健法 健やか親子21	講義	
14	地域における健康支援	1. 地域での感染管理を理解する 2. 感染対策の法律を理解する 3. 感染症発症時の対応と予防活動を理解する	感染性疾患への対策 感染性疾患の発生状況 感染性疾患予防の原則 わが国の感染症対策体制 ・感染症法による対策 ・その他の法律及び規則（検疫法、国際保健規則） 健康危機管理の実際 ・感染症発症時の対策と予防活動 (感染症対策の関係法律、予防接種法)	講義	
15	テスト				

授業科目	健康支援論Ⅱ（成人・高齢者）	学年	1 学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	成人・高齢者の健康と暮らし、健康観の多様性を理解し、その人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。、人・高齢者の本人のみではなくその家族や地域を支援する術を学修し、体力増進、生活習慣病の予防、体力低下の予防、介護予防、など心身の向上のための活動を支援することを学ぶ。		
目的	成人と高齢者の健康と暮らし、健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。		
目標	1.成人・高齢者の健康と暮らしを理解する 2.成人・高齢者の健康を障害する要因を理解する 3.成人・高齢者の健康支援について理解する 4.地域における健康教育について理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>成人看護学[1]成人看護学総論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>老年看護学／老年看護病態・疾患論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院 <系統看護学講座別巻>精神保健福祉：医学書院 <系統看護学講座専門基礎>公衆衛生 健康支援と社会保障制度②：医学書院		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	成人の暮らしと健康	成人にとっての健康と暮らしの特徴を学ぶ	成人にとっての健康とは 成人を取り巻く環境 成人のライフスタイルの特徴 ライフスタイルや働き方の特徴と広がり 日常の暮らしの特徴と多様性 生活習慣病	講義	
2	成人の仕事と健康	成人の職業と健康障害の関連を学ぶ	成人の健康の状況 生活と健康をまもりはぐくむシステム 生活習慣病対策、健康日本21、健康増進法 新健康フロンティア戦略、がん対策基本法 特定健康診査と特定保健指導 スマートライフプロジェクト 職業性疾病・業務上疾病 労働基準法 労働安全衛生法 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	講義	
3	生活行動がもたらす健康問題とその予防	生活行動がもたらす健康問題について学ぶ	健康バランスの構成要素 就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 飲酒がもたらす健康問題 喫煙と健康問題 身体活動量低下と運動不足 肥満	講義	
4	関係のなかの人間	家族のコミュニケーションや家族役割、人の成長と回復にとっての集団の役割とダイナミクスを学ぶ	システムとしての人間関係 全体としての家族 家族の関係性とコミュニケーション 家族システムという考え方 人間と集団 集団と個人 グループの活用 全体としてのグループ	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	心身の健康に及ぼすストレスの影響	ストレス及び精神の健康における危機、必要な力と支援を学ぶ。	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響 生体システムとしてのストレス反応 ストレスの社会文化的背景 精神保健における危機というとらえ方 ストレスへの対処（コーピング）	講義	
6	社会生活の場におけるメンタルヘルス	社会生活の場（家庭・職場）におけるメンタルヘルスと支援について学ぶ	職場におけるメンタルヘルス 働く人の心の健康 過労死 家庭でのメンタルヘルス ひきこもり うつ病 物質依存（アルコール、薬物、他）	講義	
7	精神保健福祉活動のための3つの予防概念	一次予防、二次予防、三次予防の概念と概要を学ぶ	精神保健における3つの予防概念 一次予防としての啓発と教育 二次予防としての早期発見、早期介入 三次予防としての回復と再発防止への支援	講義	
8	大人の学習	成人の学習の特徴を学ぶ	大人の健康行動のとらえ方 大人の学習 学習に基づく行動形成 行動変容ステージモデル 自己効力感	講義	
9	集団への健康支援	集団への健康支援を学ぶ	集団（グループ）のもつ意味 看護における集団へのアプローチの基本 集団への効果的なはたらきかけ	講義	
10	高齢者の健康	高齢者にとっての健康と暮らしについて学ぶ	高齢者にとっての健康について理解する 健康のとらえ方 健康の特徴 高齢者にとっての健康維持・増進の意義 サクセスフルエイジング 高齢者の暮らし、生きがい 高齢者の家族の機能	講義	
11	老年症候群	高齢者の健康を障害する要因を学ぶ	老年症候群 フレイル サルコペニア 低栄養	講義	
12	高齢者の健康支援	高齢者の健康支援について考える	健康管理、健康学習、健康教室 老年症候群予防、介護予防 日常生活援助、日常生活自立への支援	講義	
13	地域における健康教育	健康教育の概要について学ぶ	健康教育の目的 健康教育の方法	講義	
14	地域における健康教育	地域における健康教育について学ぶ	地域で行われている健康教育 生活習慣病 介護予防	講義	
15	テスト				